

授 業 概 要

(介護福祉科)

授業のタイトル (科目名) 介護の基本Ⅱ－2	授業の種類 (<u>講義</u> ・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 伊東 美子 (実務経験者)	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>生活者としての利用者が安心して生活できる環境を整えるため、介護の場における事故防止や安全対策、感染対策の重要性について学んでいく。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>①介護における安全の確保とリスクマネジメントについて考察できる。</p> <p>②感染防止など介護従事者としての健康管理の知識と技術を身につけ、安心して働ける環境作りに寄与できる力を養う。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数 15コマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 多職種連携の意義と目的 2. 協働職種の理解と連携のあり方 3. 利用者を取り巻く多職種連携の実際 4. 地域連携の意義と目的 5. 地域連携にかかわる機関の理解と利用者を取り巻く地域連携の実際 6. 介護における安全の確保の重要性 7. 安全確保のためのリスクマネジメント 8. 事故防止、安全対策のためのリスクマネジメントのしくみ 9. 生活の中のリスクと対策 10. 生活の場での感染対策 11. 感染対策の基礎知識 12. 感染症発生時の対応 13. 健康管理の意義と目的 14. 健康管理に必要な知識と技術 15. 安心して働ける環境づくり 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新・介護福祉士養成講座4介護の基本Ⅱ (中央法規出版) ・プリント配布 		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・筆記試験を課し、到達目標の6割以上の修得が必要 	

授 業 概 要

(介護福祉科)

授業のタイトル (科目名) 介護過程Ⅱ－2	授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 伊東 美子 (実務経験者)	
授業の回数 30回	時間数 (単位数) 60時間(4単位)	配当学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>①個別の生活課題や潜在能力を引き出すためのアセスメントを実施することができる。</p> <p>②介護過程の理論と実習体験を関連付けながら、介護過程を展開することができる。</p> <p>③介護過程を展開する上での観察力や洞察力を身に付け、最終的に利用者個々にあった介護計画を立案することができる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数 15コマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習Ⅱ－3まとめ①評価 2. 実習Ⅱ－3まとめ②評価 3. ケースレポート作成について 4. ケースレポート作成における構成について 5. ケースレポートの構成 6. ケースレポート作成① 7. ケースレポート作成② 8. ケースレポート作成③ 9. ケースレポート作成④ 10. ケースレポート作成⑤ 11. ケースレポート作成⑥ 12. ケースレポート作成⑦ 13. ケースレポート作成⑧ 14. パワーポイント作成① 15. パワーポイント作成② 16. パワーポイント作成③ 17. パワーポイント作成④ 18. パワーポイント作成⑤ 19. 報告会リハーサル① 20. 報告会リハーサル② 21. 報告会リハーサル③ 22. 報告会リハーサル④ 23. 実習報告会準備① 24. 実習報告会準備② 25. 実習報告会① 26. 実習報告会② 			

27. 実習報告会③
28. 実習報告会④
29. ケースレポート提出準備
30. まとめ

[使用テキスト・参考文献]

- ・新介護福祉士養成講座 9 介護過程
(中央法規出版)
- ・介護実習要綱

[単位認定の方法及び基準]

- ・単位取得には 8 割以上の出席が必要
- ・筆記試験を課し、到達目標の 6 割以上の修得が必要

授 業 概 要

(介護福祉科)

授業のタイトル (科目名) 介護実習Ⅱ-3	授業の種類 (実習)	授業担当者 福田康之・速水貴昭 棚橋恭子・伊東美子 (全員 実務経験者)	
授業回数 1日7時間×25日	時間数 (単位数) 175時間 (4単位)	配当学年・時期 2学年・後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 知識と技術を統合し、介護過程を展開して具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を修得する。さまざまな生活の場における個別ケアの理解を深め、介護福祉士の役割について学ぶ。また、介護過程の展開を実践を通して学ぶ。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ①介護とは何かを理解し、介護を実践する基本的能力を身につける。 ②専門職業人として自己をみつめることができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 目的：利用者の生活課題（ニーズ）を理解し、適切な介護を展開する能力を養うと共に自己の介護福祉観を深める。 目 標：①利用者の個別理解を深め、適切な介護を考えられる。 ②チームケアのあり方を具体的に学ぶ。 ③介護福祉に関する研究的態度を養う。 ④職業人としての介護福祉士である自己を明確にする。 実習方法・特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、障害者支援施設、救護施設のいずれかで行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の展開を学び、利用者の理解を深め、適切な介護を考える。 ・個別介護計画について、ケース検討会等に参加し理解する。 ・夜勤実習を体験し、介護の継続性について学ぶ。 ・幅広い介護プログラムに積極的に参加する。 ・実習終了後ケースレポートをまとめ、事故の介護福祉観を深める。 			
[使用テキスト・参考文献] 介護総合演習・介護実習 中央法規出版 KOMI 記録システム 現代社		[単位認定の方法及び基準] ・必要実習時間の参加が必要 ・実習先からの評価を参考に実習態度、介護技術等で評価し、到達目標の6割以上の修得が必要	

授 業 概 要

科目名 介護総合演習Ⅱ-2		授業の種類 演習		授業担当者 棚橋 恭子（実務経験者）	
授業回数 15回	時間数（単位数） 30時間（1単位）	配当学年・時期 2学年後期		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 効果的な実習ができるように、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開について総合的に学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 介護技術の確認、オリエンテーション、実習報告等を計画的に設ける。実習後の振り返り（レポート作成）を行う。</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）] 課題を達成するために主体的に行動できる力を身につける。 学びを統合して実際の場面で様々な角度から思考し、根拠に基づいた介護実践ができる能力を養う。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習課題まとめ① 2. 実習課題まとめ② 3. 実習記録まとめ① 4. 実習記録まとめ② 5. 実習記録まとめ③ 6. 実習記録まとめ④ 7. 実習記録まとめ⑤ 8. 実習記録まとめ⑥ 9. 実習レポート作成の説明 10. 実習レポート作成 11. 実習レポート作成 12. 実習レポート作成・パワーポイント作成 13. 実習レポート作成・パワーポイント作成 14. 実習レポート作成・パワーポイント作成 15. 実習レポート作成・パワーポイント作成 					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新・介護福祉士養成講座 第3版 ⑩介護総合演習・介護実習」 （中央法規出版） 			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・提出課題を課し、授業態度や提出状況により到達目標の6割以上の修得が必要 		

授 業 概 要

(介護福祉科)

授業のタイトル (科目名) 社会福祉	授業の種類 (<u>講義</u> ・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 安藤 清彦 (実務経験者)	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 2 年・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>国家試験のひとつの科目である社会の理解について、国家試験における出題範囲の把握とこれまでの知識修得の確認を行う。また、過去問題や予想問題を解くことで、出題傾向の理解と国家試験に合格できるための力をつける。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>①1. 2 年で学習した「社会と制度の理解 I・II」について、その学習を振り返ることで知識修得確認を行うことができる。</p> <p>②国家試験における社会の理解の問題を読み込む力をつけることができる。</p> <p>③国家試験における社会の理解の問題を解き正答を導き出すことができる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数 15 コマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国家試験社会の理解 範囲確認、出題傾向の確認 2. 生活と福祉① 3. 生活と福祉② 4. 社会保障制度① 5. 社会保障制度② 6. 障害者福祉① 7. 障害者福祉② 8. 介護保険制度① 9. 介護保険制度② 10. その他諸制度① 日常生活自立支援事業 11. その他諸制度② 成年後見制度 12. その他諸制度③ 生活保護 13. 社会の理解 過去問題① 14. 社会の理解 過去問題② 15. 社会の理解 過去問題③ 			
[使用テキスト・参考文献] ・新・介護福祉士養成講座 「②社会と制度の理解」第 6 版 (中央法規) ・介護福祉士受験ワークブック (上) (中央法規) ・介護福祉士国試ナビ (中央法規) ・他 配布プリント		[単位認定の方法及び基準] ・単位取得には 8 割以上の出席が必要 ・筆記試験を課し、到達目標の 6 割以上の修得が必要	

授 業 概 要

(介護福祉学科)

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術Ⅲ-2	授業の種類 (講義)	授業担当者 稲川克弘 (実務経験者) 速水貴昭 (実務経験者)																															
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 2年・後期	必修・選択 必須科目																														
[授業の目的・ねらい] 利用者の障害に応じて、それぞれの障害の理解と生活を支えるための基本介護技術を習得するための学習とする。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・様々な障害に応じた生活支援を理解することができる。 ・介護福祉士として利用者の潜在能力をどうしたら引きだすことができるのか考え、実践することができる。																																	
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">1. 利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは</td> <td style="width: 40%; text-align: right;">1～5 速水 貴昭</td> </tr> <tr> <td>2. 肢体不自由に応じた介護①</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3. 肢体不自由に応じた介護②</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4. パーキンソン病に応じた介護①</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5. パーキンソン病に応じた介護②</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6. 知的障害のある人と生活の理解</td> <td style="text-align: right;">6～15 稲川 克弘</td> </tr> <tr> <td>7. 知的障害のある人への支援①</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 知的障害のある人への支援②</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 精神障害のある人への生活の理解</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10. 精神障害のある人への支援</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11. 高次脳機能障害のある人と生活の理解</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12. 高次脳機能障害のある人への支援</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13. 発達障害のある人と生活の理解</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14. 発達障害のある人への支援</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15. まとめ</td> <td></td> </tr> </table>				1. 利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは	1～5 速水 貴昭	2. 肢体不自由に応じた介護①		3. 肢体不自由に応じた介護②		4. パーキンソン病に応じた介護①		5. パーキンソン病に応じた介護②		6. 知的障害のある人と生活の理解	6～15 稲川 克弘	7. 知的障害のある人への支援①		8. 知的障害のある人への支援②		9. 精神障害のある人への生活の理解		10. 精神障害のある人への支援		11. 高次脳機能障害のある人と生活の理解		12. 高次脳機能障害のある人への支援		13. 発達障害のある人と生活の理解		14. 発達障害のある人への支援		15. まとめ	
1. 利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは	1～5 速水 貴昭																																
2. 肢体不自由に応じた介護①																																	
3. 肢体不自由に応じた介護②																																	
4. パーキンソン病に応じた介護①																																	
5. パーキンソン病に応じた介護②																																	
6. 知的障害のある人と生活の理解	6～15 稲川 克弘																																
7. 知的障害のある人への支援①																																	
8. 知的障害のある人への支援②																																	
9. 精神障害のある人への生活の理解																																	
10. 精神障害のある人への支援																																	
11. 高次脳機能障害のある人と生活の理解																																	
12. 高次脳機能障害のある人への支援																																	
13. 発達障害のある人と生活の理解																																	
14. 発達障害のある人への支援																																	
15. まとめ																																	
[使用テキスト・参考文献] ・「介護福祉士養成講座⑧生活支援技術Ⅲ」 (中央法規出版) ・プリント配布		[単位認定の方法及び基準] ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・筆記試験を課し、到達目標の6割以上の修得が必要																															

授 業 概 要

(介護福祉学科)

授業のタイトル (科目名) 発達と老化の理解 II	授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 伊東 美子 (実務経験者)
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 2年・後期
必修・選択 必修		
[授業の目的・ねらい] 生まれたから死ぬまでの成長・発達する過程を通して人を理解し、老年期における発達課題や高齢者に多い症状、疾病の特徴、老化がもたらす高齢者の生活への影響を身体的、精神的、社会的側面からとらえ、老化に伴う変化の特徴とその対応へについて必要な知識を学ぶ説明できる。		
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 1・人間の発達に関する心理学の基礎知識を学び理解できる。 2・人が生まれてから死に至るまでの発達段階における特徴、発達課題、生涯発達の考え方が説明できる。 3・老化に伴う心身の機能の変化や特徴を理解し、高齢者の日常生活にどのような影響を及ぼすか説明できる。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 15 1 高齢者と健康 1 老化に伴う身体的な変化と生活への影響 2 老化に伴う心理的な変化と生活への影響 3 老化に伴う社会的な変化と生活への影響 4 演習 5 健康長寿に向けての健康 6 健康長寿に向けての健康 7 高齢者の症状・疾患の特徴① 8 高齢者の症状・疾患の特徴② 9 高齢者の症状・疾患の特徴③ 10 演習 11 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点① 12 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点② 13 保健医療職との連携 14 演習 15 まとめ		
[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座 「11 発達と老化の理解」(中央法規出版)	[単位認定の方法及び基準] ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・筆記試験を課し、到達目標の6割以上の修得が必要	